

## 事 実 の 概 要

東北大学学友会吹奏楽部に所属するXは、令和5年5月30日のサマコン3ステ合奏において、「お昼ご飯を学食以外で食べた人」というお題に対し、文系食堂は混むからという理由で利用しなかったために当題に該当し、更に、その後の指揮者とのじゃんけんにて一人勝ちしたことにより、本日誌を担当することとなった。

## 主 文

4T (Tune, Tone, Tempo, Touch) を大切に。

## 理 由

### 第1 本件合奏の要旨

基礎合奏→曲合奏 (The Greatest Showman→My Favorite Things→パイレーツ・オブ・カリビアン)

### 第2 基礎合奏

基礎合奏において行われたものは次のとおりである。

- 1 チューニング
  - i 全員でF
  - ii 全員でB♭
  - iii パートを半分に分けてFとB♭
- 2 1iiiの音でリズム練習 (リズムはSlack3ステ参照)
- 3 B♭のハーモニー

### 第3 The Greatest Showman

1 The Greatest Show に関しては次のとおりである。

- (1) 2小節目 音程を合わせる (Cl, Tpがメイン)。
  - (2) Cの4小節前 Saxはパート内で吹き方を統一する (特に4拍目)。
  - (3) C メロディー (Cl, Tp)は吹き方を統一する。フレージングをし、特にフレーズの最後のリリースに注意する。
    - (4) Cの4小節前3拍目から Sax, Euph, Hr, Tpは3拍目の16分音符のアタックをし、16分音符に聞こえるようにする。また、止めるタイミングを揃える (Hrは2拍目に入る前に区切りがあるように吹く)。
    - (5) Dの最後から2小節目3拍目から リズムを揃え、発音をはっきりする。
- 2 From Now On に関しては次のとおりである。
- (1) Kの前 Hrはカンニングブレスで、ブレスのタイミングをずらす。
  - (2) L Trb, Euphは音色を合わせる。また、2小節目からの入りはアクセントをもっと

付ける。

(3) K の 9 小節目 Fl, Ob, グロッケン は伸ばしの音価を正しく伸ばす (10 小節目に入る前に切る)。

(4) M の 4 小節目 メロディー以外はクレッシェンドする。また、その後の B.sax は抑える。

(5) O の 8 小節目 メロディーは伸ばしの 2 小節間少し下り、その後 O の 1 小節前を頂点とする。

(6) O Euph, T.sax, B.sax, BassCl はリズムを揃える。

(7) O 伸ばしの人 は休符分しっかり休む。Fl, Ob, Cl は合唱している感じで吹く (P の 3 小節目を頂点とし、そこに向かって持っていく)。加えて、ピッチを揃える。

(8) P の 3 小節目の 4 拍目 メロディーはリズムを揃える。

(9) Q ゆっくりになるけれど、rit はしない (Tp は 1 小節目の 1 拍目を予備拍と考える)。

#### 第 4 My Favorite Things

1 (1) イントロ Cl のソロ 3 人、Picc, Ob で揃える (特に頭拍)。

(2) A の 1 小節前 リズムを揃える

(3) B の 2 小節前 リズムを揃える。Hr, Euph は頭拍で切り替える。

(4) C Tp, Trb, Tuba はアクセントをはっきりさせつつ、短すぎないようにする。また、1・2 小節目を揃える。

(5) D の 9 小節目から グロッケン、Picc, 1stCl, Asax は入りを落として (連符の後一旦落として)、だんだん上げる。

(6) D Trb は伸ばし続ける。

(7) E 四分音符と 2 小節目の山型アクセントが付いている音のピッチを揃える。

(8) F の 4 小節前 Tp, Hr, Trb, Tuba は mf までデクレッシェンドし、その後 mf からのクレッシェンドをはっきりする。

(9) F の前 全員落とし、徐々にクレッシェンド。そして、6 小節目から急に ff (tutti) にする。

(10) F の 6 小節目 発音をしっかりとし、縦を揃える。クレッシェンドもはっきりする。

(11) G の 5 小節前 頭のアクセントをしっかりと吹き、次の小節に繋げるイメージで演奏する (その小節だけでクレッシェンド→デクレッシェンド)。

(12) G Hr 以外は mf で吹く。

(13) H の 9 小節目 Picc, Ob, 1stCl はピッチを揃える。

(14) I の 3 小節目 ピッチを揃える。

(15) I メロディーが聞こえるようなハーモニーバランスで吹く。

(16) I Cl は豊かな (木の) 音で吹く。

(17) Jの5小節目 チャイムはもっと出してもよい。切り替えをはっきりする。

(18) Jの7小節目から アクセントとスタッカートの違いをはっきりさせる。

(19) K ピッチを揃える。また、BassClのスラーはなめらかに吹く。3小節目からB♭Clが入るときは、BassClの音色に寄せて入る（同じ人が吹いているように）。

(20) K フルーツは4小節ずつのフレーズを意識する。

(21) Lの4小節前 pまで落とす。

(22) L ピッチを揃える。BassClはもっと出してもよい（B♭Clとのバランスの観点から）。

(23) Q メロディー以外は抑える。

## 第5 結論

以上によれば、本合奏のどの曲においても音色の統一や音程の合いには疑いが残る。

また、テンポキープはもちろん、そのためには気持ちを合わせることも必要だと言える。

以上より、その余の争点を検討するまでもなく、4Tが大切であることは明確であるから、主文のとおり判決する。

令和5年5月30日

東北大学学友会吹奏楽部

03 フルーツ 小倉 陽花

## 追記

私は法学部なので、以前の部日誌が法律形式で書かれているのを見て、判決文の形式で書きたくなりました。とはいえ、正しい書き方は存じ上げませんので、雰囲気でご覧いただけますと幸いです。また、書きたいとは思ったものの、整合性をとるほどの気力は残っておらず、内容に一貫性が無いことをお詫び申し上げます。